

平成29年度 第2回学校協議会 記録

日時 平成29年10月7日(土) 15時～17時

場所 槻の木高等学校応接室

参加 山口裕稔 (槻の木高等学校PTA会長)
山口善章 (高槻市立第一中学校校長)
山本冬彦 (関西大学文学部教授)
宮坂政宏 ((株)ERP編集主幹)

竹下健治 (槻の木高等学校校長)
田中 徹 (槻の木高等学校教頭)
河嶋憲治 (槻の木高等学校事務長)
奥本雅俊 (槻の木高等学校指導教諭)
山本 尚 (槻の木高等学校首席)
田中 眞 (槻の木高等学校首席)
藤田 稔 (槻の木高等学校教諭)

議事

1. 学校長挨拶

竹下校長

「お忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。後期に入り、各学年ともさらに頑張っていこうと思います。学力テストの結果をみて、3学年とも着実に成績は上向いており、遅刻数もさらに減少しています。しかし、この結果に満足することなく、新たな課題に目をむけ、次の段階に進んで参りたいと思います。本日も忌憚のないご意見を頂ければ幸いです。」

2. 会長挨拶

山口さん (PTA会長)

「本日議事進行させていただく山口です。よろしく申し上げます。では、早速ですが、学校からの報告をお願いします。」

3. 報告・協議

(1) 学校からの報告

①平成30年度高等学校入学者選抜について 報告者 竹下校長
～アドミッションポリシー等について～

竹下校長

「本校が後期入試に変更になり、どのような状況になるのか、心配していたわけですが、一昨年は後期の中では、受験者数は多く、ひとまず安心していただけですが、昨年、受験者数が大幅に減少したわけであり、一時的な進路実績の伸び悩みや学校組織の硬直化も考えられる中で、ネクストステップを積極的に実施したり、ホームページを新しくするなど取り組んではいるのですが、本校としては、

受験者の減少の確たる理由がわかりかねております。よろしければ、中学校サイドからの御意見を聞かせてもらえればと思いますが、何か感じられることはございますか？」

山口さん（高槻一中校長）

「進路担当や担任とも話をしておりますが、槻の木高校のことは、あまり生徒に情報そのものが伝わっていないようで、よくわからないということをよく聞きます。あと、子供を入学させたいと思う保護者はたくさんいるようですが、生徒たちは、何となく生活指導面、勉強面で厳しい学校というイメージを持っており、希望者が増えない現状があるのかなと思います。あと付け加えていうならば、入学後3年間で生徒がどこまで伸びたのかわからないということもよく聞きます。

保護者は「安心できる学校」、「躰ができること」について評価されていると思います。」

竹下校長

「「伸び」は進路実績をにらんでいるのか？」

山口さん（高槻一中校長）

「そうだと思う」

山口さん（PTA会長）

「子どもに聞いたら、行きたい大学に行かせてくれると思ったと答えた。若い学校なので進路実績で左右されるところがある」

②大学入試新制度への対応について 報告者 山本首席、奥本指導教諭

山本首席

「平成32年度より、大学入試改革が始まります。そこでは、「学力」の3要素として知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度があげられています。我々としては、この変化をチャンスと捉え、「単位制」は「変化」に強いということを積極的に学校内外に示していきたいと考えています。また、「教育」、「学校」、「学力」等の根源的な議論の中で、「特色校としての槻の木」の再確認できるものと考えています。このような学力観、および大学入試新制度について、委員の皆様のご提言を頂戴したいと思います。」

宮坂委員

「ボーダーレス時代にはいり国境がなくなった時に各国の大学の質保障のため改革が進み、その後PISAをはじめ国際基準の「～型学力」という言葉が多く出てきましたが、日本の大学改革はなかなか進まなかった。これで企業が困ってきたわけです。人材に投資することで生産性を向上させることをめざして教育界以外の動きも活発になってきました。このような変化によって大学入試はどう変わってゆくのか？まず、「文系」「理系」をなくすことがあります。過去にもこのような学力観はずっとありましたが、「ゆとり教育」もこの流れの中にあっただけです。次の学習指導要領で示される文系、理系といった枠にとらわれない力、具体的には能動的、主体的に深く学び、生きていく力、これのベースとして「言語能力」があるようですが、このような「学力」が今後求められていくことになるようです。教科名にも探求や論理という言葉が多く使われることになるようです。」

山本委員

「PISA では問題解決型の力を求められます。「生きる力」は 1996 年から言われていますが、なかなかうまく取り組めなかったので、また、出てきたわけです。

これまでの大学入試センター試験に関する評価はわかれており、採点期間の短さや採点量の多さから考えて、記述式問題の導入はある程度にしかならないのではないのでしょうか。本学のようなマンモス私立大学では、現在でも少しは記述式問題を出題していますが、今以上に増やすことは物理的に厳しいものがあります。ただ、教育の方法についての変化が求められていることは理解できる部分があります。

実際、担当している学生の卒業論文の指導をしていますが、彼らの「読書量」そのものがかなり減っていて、なかなか2万字の論文を書くのに四苦八苦する学生も増えていると思います。「大学教育改革」と銘打って、取り組んでいくことは必要だとは思いますが、現実には厳しいものがあり、「研究」と「教育」のどちらもさらになんばれということはなかなかにつらいものがあります。むしろ、こと「教育」ということに関しては、ベネッセなどの主催する講演会などで紹介されるものについては、高校の方が先行しているのではないかという印象を受けます」

宮坂委員

「今まで高校で取り組んでこられた方法論で、基本的には間違っていないと思います。これまでに言われてきた「知」、「徳」、「体」以外に新たに「問題発見開発能力」ということが話題になり、議論されています。これからは、この「問題発見開発能力」の重要度が増していくことになっていくわけですが、「主体的で能動的な学び」と簡単にいいますが、具体的にどのような授業を展開すればいいのか、学校だけで考えろ、と言われても、できることは限られていると思います。」

山本首席

「そのためには、やはり優秀な人材が必要だと思いますが、……」

山本委員

「例えば、これは、個々の学校レベルの話ではなくなりますが、学級定員を考えて少人数クラスにしていくとか、具体的に手を打っていかないといけない時期に来ていると思います。

授業で何ができるかということが重要ですが、まだ形は見えていません。知識を関連付けられるような能力が必要になります。知識が構造化されることが重要です。」

宮坂委員

「大きな意味で、教育界に負担をかけ過ぎている状況が続いていると思います。」

山本委員

「本当にその通りで、先ほども申し上げましたが、大学でも先生方の仕事が増えています。

現状は、「研究」活動と「教育」活動、それから大学改革のためのさまざまな取り組みとの板ばさみで、苦労しているところです。」

山口さん（PTA会長）

「それでは、次に具体的な大学入試改革の対応について、特に大幅に変わる英語についての報告に移りたいと思います。」

奥本指導教諭

「別紙にもあるように平成32年度より、国語、数学で3問程度記述式の問題が出題されるようです。それに続いて、平成36年度からは地歴・公民分野、理科分野でも記述式を導入する方向で検討されていて、その方向に進んでいくものと思われます。また、大きな変化がある英語では、新たに「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」の4技能の評価が始まります。英語科としては、現状の授業だけでも汲々としているので、今後さらに、厳しい状況になっていくと思われます。また、それに関連して、外部の検定試験を活用するということから、どの検定試験にするかということもあわせて考えていかななくてはなりません。その際、受験人数、年間の実施回数、受験料などを考慮して慎重に、決めていきたいと思います。おもな英語の資格、検定試験については別紙を参考にしてください。」

山口さん（PTA会長）

「それでは各委員の皆様一言ずつ頂きたいと思います。」

山口さん（高槻一中校長）

「今日のお話を聞いて、大学の入試と社会に出てから何が大切なのかということを考えるいい機会になり、とてもためになりました。中学校での今後の教育活動に活かしていきたいと思います。現在の中学校現場は、教員は時間に追い立てられ、ただ、もがいているだけで、余裕がある状況ではありません。授業の流れも教科書が作っています。ただそんな中でも、一中では、教員に全国学力テストを解答してもらい、授業で活かす取り組みを始めるなどして、少しずつ変わっていかうと思っています。」

山本委員

「私はいまの状況を説明させていただきました。ものごとを進めていくにあたっては、「ストーリー」を示さないと、主体的にはなれないのではないのでしょうか。地道な取り組みを続けていくしかないと思っています。」

宮坂委員

「槻の木高校の「土台」を再度、ブラッシュアップしていくのに、いい時期がきたのではないですか。」

竹下校長

「これからの槻の木高校を考えていくいい機会になりました。本日はどうもありがとうございました。」

山口さん（PTA会長）

「それでは、これで第2回学校協議会を終了します。ありがとうございました。」